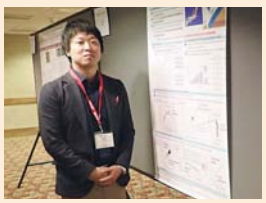
国際会議から　雪・雪崩に関する国際会議2016

International Snow Science Workshop（ISSW）はISSW STEERING COMMITTEEが主催となって2年ごとに開催する，積雪の性状や雪崩の発生検知，またはその予測方法に関する最新の研究成果の情報を共有・交換する国際ワークショップです。第20回目となる今回は，採択された論文数が239件，参加者は1000人を超える大規模な会議となりました。

本会議では，口頭発表が20セッション，ポスター発表が4セッションありました。筆者は，積雪性状や雪崩検知，観測技術のポスターセッションにおいて，全層雪崩の危険度評価手法を目標とした積雪性状推定モデルについて発表を行いました。今後のモデルの展開や鉄道への応用方法に関する有意義な意見交換を行いました。また，本セッションでは，日本ではあまり行われていない観測･実験に関する発表があり，新しい観測手法や情報源を利用した研究成果が発表され，最新の知見を得ることができました。会場のブリッケンリッジ（コロラド州）は，とても落ち着いた街で，軽井沢のような印象でした。



筆者
（ポスターセッション会場にて）

佐藤亮太
防災技術研究部
気象防災研究室

正式名称：International Snow Science Workshop
開 催 国：アメリカ合衆国（コロラド州）
期　　間：2016/10/3－7
主　　催：ISSW STEERING COMMITTEE
開催頻度：2年に1度
次回開催予定：2018年10月　オーストリア
ホームページURL：http://www.issw.org/

オーラル会場風景

ポスター会場風景

ブリッケンリッジの街並

国際会議から　第18回国際輪軸会議

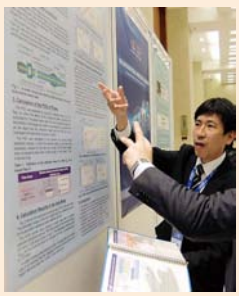
本国際会議は文字通り，鉄道車両の輪軸（車輪と車軸）に特化した会議で，その製造，損傷・強度評価，非破壊試験やレールとの相互作用を中心に議論されます。1963年にイタリアで第1回が開催されて以降，中国では1998年の第12回に次いで2回目の開催となりました。

会議では，4件の基調講演，62件の口頭発表，49件のポスター発表とともに，輪軸メーカーなど39社の展示がありました。本会議は学術的な発表のみならず，各メーカーの製品に関する発表もあり，研究者とメーカーとの情報交換の場としても機能しているのが特徴です。開催国の中国やヨーロッパをはじめとする世界各国から約400名が集まり，活発な質疑応答が行われました。

鉄道総研からは3名が参加し，筆者は車軸の非破壊検査の一つである「超音波探傷」に関するポスター発表を行いました。この発表では，万が一，車軸にきずが発生したときに検出できる確率についての研究成果を示しました。参加者との議論では，試験用の車軸とともに，実際の車軸でのきずの検出確率についてなどの有意義な意見交換を行いました。

ディナー会場付近のパンダ像

今回の開催地の中国・成都は，パンダや四川料理など，日本人にもなじみの深い場所であり，街中のいたる所がパンダで飾られていました。また，地下鉄の建設ラッシュですでに4号線まで開通し，一昔前のバス中心の交通網が一変しつつあります。すべての駅でホームドアが採用されているのも印象的でした。


ポスター発表中の筆者

牧野一成
車両構造技術研究部
車両強度研究室
主任研究員

正式名称：18th International Wheelset Congress
開 催 国：中華人民共和国（成都）
期　　間：2016/11/7－11
主　　催：UNIFE（European Rail Industry Association），ERWA（European Railway Wheels Association）
開催頻度：3年に一度
次回開催予定：2019年6月　イタリア（ベネチア）
ホームページURL：http://www.iwc2016.com/